

和田川のおその水道

昭和六十三年七月五日号

昔の和田川は、水量が多く、ところどころが深い淵になっていました。新橋の下手には「おその水道」と呼んだ深い淵があったといわれます。今回はこの淵に伝わるお話です。

身を投げたおその

江戸時代のころです。吉原宿は大変繁盛してにぎわいました。

この宿場におそのという若い芸者があり、売れっ子で、みんなからかわいがられていました。

ところが、おそのはいつしか体が弱くなり、働けなくなりました。



すると主人は、稼ぎがないと言って、殴ったり、け飛ばしたり、毎日いじめました。

おそのは悲しくなって、主人を恨みながら、この淵に身を投げて死んでしまいました。それから間もなく、おそのの幽霊が出るというわさが広まり、夜遅くここを通る人がなくなりました。

出なくなつた幽霊

この淵は吉原宿の東のはずれで東海道です。幽霊の評判が広まって、吉原宿がさびれては困るし、第一おそのがかわいそうだという声が人々の中から起きました。

そこで、ある寺のお坊さんが、ほこらを建てて「おその地蔵」をまつり、お経を読んでおその霊を慰めました。すると幽霊は出なくなりました。

深い淵があつたよ

渡辺つるさん(依田橋)

依田橋の渡辺つるさんは「残念ながらおそのさんの話は聞いたことがないよ。でも、昔は和田川の水が多くて深い淵もあり、身投げ

したら死んでしまうような場所もあつたね。昭和の初めごろは砂利船が通つたり水車もあつて、人々は川をもつと身近に感じていたね。東海道筋にはうつそうとした松林があり、幽霊のうわさがたてば、そりゃあ怖かつたでしょうね」と語ってくれました。



和田川(新橋付近)